

生活			理科		
サ 生命・自然			イ 季節と生物		
小学部 1段階	小学部 2段階	小学部 3段階	中学部 1段階	中学部 2段階	
教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動	身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動	身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動	身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらに関係付けて調べる活動	
思考表 (ア) 身の回りにおける生命や自然に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	思考表 (ア) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	思考表 (ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。	思考表 (イ) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。 ⑧ 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。	思考表 (イ) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。 ⑧ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。	
知覚 (イ) 身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	知覚 (イ) 身近な生命や自然について知ること。	知覚 (イ) 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。	知覚 (イ) 身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気づき、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。	知覚 (イ) 身近な動物や植物の成長の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。	
【自然との触れ合い】			【動物の姿の違い】		
身近な自然の中で遊ぶこと／自然を利用した遊びをすること／校外学習などの際に自然に親しむこと			⑦ 生徒の身の回りで見られる様々な生物の色、形、大きさなどの特徴について調べる活動		
・公園、川、野山、海などで楽しく遊び、自然の事物や事象に触れ、生き物などに興味や関心をもつこと	・自然の事物や事象に触れ、自然がその姿を変えることが分かったり、動物の動きなどに興味をもったりすること	・草木、木の実、落ち葉などを集めたり、形や色などの特徴をつかんだり、植物の変化を捉えたりすること ・自然の事象として天候の変化などについて学習すること	知覚 生物にはそれぞれ固有の形態があることについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること	知覚 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること	
生活 (草花や木のはてあそぼう ～春・夏・秋・冬～)			思考表 ・「差異点や共通点に気づき」とは、生物の姿について、違う点や同じ点に気づくこと ・「疑問をもち」とは、「虫の形は全部違うのかな」といった考えをもつこと	思考表 ・「既習の内容や生活経験を基に予想し」とは、これまでの学習内容や生活において動物を育てた経験などを基に予想すること	
生活 (きせつのずかん ～春・夏・秋・冬～)			単元 ・タンポポやチューリップなどの様々な種類の植物やアリやカエルなどの様々な種類の動物を観察する際に、見たり、触れたり、においを感じたりするなど直接観察を通して、諸感覚で確認すること ⑧ 共通 ・生活科の学習との関連を考慮しながら、理科の学習の基礎となる自然体験活動の充実を図り、生徒の野外での発見や気づきを大切にすること ・観察の際は、直接観察することに加え、細かい部分を拡大するなどして、生物の特徴を図や絵で記録するなど、身の回りの生物について考えたり、説明したりする活動の充実を図るようにすること ・虫眼鏡などの器具の使用 ・野外での学習に際しては、毒をもつ生物に注意するとともに事故に遭わないように安全に配慮するように指導すること ・自然環境の中で、生物の採取は必要最小限にとどめるなど、生態系の維持に配慮するようにし、環境保全の態度を育てるようにすること	単元 ・1年を通しての動物の活動を観察や映像資料などで指導すること ・活動の様子として、身近に見られる動物は、暖かい季節には出現する数も多く活発に活動するが、寒い季節には活動が鈍くなったり、卵で越冬したりするなど、それぞれに適した姿で越冬状態となるものが多いこと、また、魚類や両生類は季節による水温の変化によって活動の様子などが違ってくるなど、さらに、鳥類は季節によって見られる種類や産卵、巣立ちなどに違いがあることなどを観察すること ・身近で危険のない動物とし、観察の時期については、「暖かい季節」、「寒い季節」として、それぞれ夏、冬を想定しているが、春や秋の特徴的な生物の活動も含めること	
生活単元学習 (校外歩行：公園の自然に親しむこと等) (校内歩行：花壇の植物に関心をもつこと等)			理科 (自然の観察 ～生き物のすがた[春～冬の生き物]～)		
理科 (春・夏・秋・冬の生き物)			理科 (春・夏・秋・冬の生き物)		
生命の連続性／生物と環境の関わり					
日常生活の指導 (朝の会・帰りの会：季節【食べ物・生き物・衣替え・行事等】等に関連した話題に触れること)					
【動物の飼育・植物の栽培】※動物の飼育			【昆虫の育ち方】		
身近に生息する小動物を探したり様子を観察したり、触れたりして、それらに関心をもつこと／世話をしたり、育てたりして、成長や変化に気付くこと			⑧ 様々な昆虫の成長の過程や成長による体の変化を調べる活動		
知覚 ・飼育している身近な動物に興味をもつこと	知覚 ・小動物を飼育し、生き物への興味や関心をもつこと ・自分で育てるといった実感をもつ上で、飼育動物のために、校庭の草を刈ったり、給食室に野菜くずをもらいに行ったりすること	知覚 ・身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育をしながら関心を深めること ・動物を飼育する場合は外敵の防止や気温の変化などに十分配慮し、飼育環境を整えること	知覚 昆虫の育ち方には、「卵→幼虫→蛹→成虫」というような一定の順序があることについての理解を図り、図や絵、映像などに記録するなどの観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること	知覚 昆虫の育ち方には、「卵→幼虫→蛹→成虫」というような一定の順序があることについての理解を図り、図や絵、映像などに記録するなどの観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること	
思考表 ・「差異点や共通点に気づき」とは、昆虫の育ち方について、違う点や同じ点に気づくこと			思考表 ・「差異点や共通点に気づき」とは、昆虫の育ち方について、違う点や同じ点に気づくこと ・「疑問をもち」とは、「この花はこれの後にどうなるのかな」といった考えをもつこと	思考表 ・「差異点や共通点に気づき」とは、昆虫の育ち方について、違う点や同じ点に気づくこと ・「疑問をもち」とは、「この花はこれの後にどうなるのかな」といった考えをもつこと	
単元 ・飼育を通して行うこと ・観察、実験などの際、「卵→幼虫→成虫」などの変態の仕方が違う昆虫を用意して、比較すること ・その際、生徒の実態に応じて、図や絵、映像などに記録すること ・飼育が「簡単に、身近に見られるもので、昆虫を扱うようにし、日常生活の指導の中で、係活動として学習するなどして、継続的に取り組むなど工夫すること。			単元 ・「植物の育ち方」については、夏生一年生の双子葉植物を扱うこと ・生徒の実態に応じて、図や絵、映像などに記録すること ・栽培を通して行うこと ・「植物の育ち方」については、夏生一年生の双子葉植物を扱うこと ・身近に見られるもので、夏生一年生の双子葉植物を扱うようにし、日常生活の指導の中で、係活動として学習するなどして、継続的に取り組むなど工夫すること	単元 ・「植物の育ち方」については、夏生一年生の双子葉植物を扱うこと ・身近に見られるもので、夏生一年生の双子葉植物を扱うようにし、日常生活の指導の中で、係活動として学習するなどして、継続的に取り組むなど工夫すること	
生活 (めざせ！生きものはかせ) ※デジタル教材活用			理科 (こん虫を育てよう ～モンシロチョウ～) ※デジタル教材活用		
理科 (春・夏・秋・冬の生き物)			理科 (春・夏・秋・冬の生き物)		
生命の連続性／生物と環境の関わり					
【動物の飼育・植物の栽培】※植物の栽培			【植物の育ち方】		
身近に生息する草花を探したり様子を観察したり、触れたりして、それらに関心をもつこと／世話をしたり、育てたりして、成長や変化に気付くこと			⑧ 植物の成長の過程や成長による体の変化を調べる活動		
知覚 ・栽培している植物に興味をもつこと		知覚 ・草花などを栽培しながら関心を深めること ・植物を栽培する場合は、発芽、開花、結実といった一連の成長の様子が分かるような種類を選び、長期にわたる観察を行うこと ・適時、除草したり、肥料を施したりすること	知覚 植物の育ち方には、種子から発芽し子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、花が果実になった後に個体は枯死するという一定の順序があることについての理解を図ること	知覚 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること	
思考表 ・「差異点や共通点に気づき」とは、植物の育ち方について、違う点や同じ点に気づくこと ・「疑問をもち」とは、「この花はこれの後にどうなるのかな」といった考えをもつこと			思考表 ・「差異点や共通点に気づき」とは、植物の育ち方について、違う点や同じ点に気づくこと ・「疑問をもち」とは、「この花はこれの後にどうなるのかな」といった考えをもつこと	思考表 ・「既習の内容や生活経験を基に予想し」とは、これまでの学習内容や生活において植物を育てた経験などを基に予想すること	
単元 ・栽培を通して行うこと ・「植物の育ち方」については、夏生一年生の双子葉植物を扱うこと ・生徒の実態に応じて、図や絵、映像などに記録すること ・栽培が「簡単に、身近に見られるもので、夏生一年生の双子葉植物を扱うようにし、日常生活の指導の中で、係活動として学習するなどして、継続的に取り組むなど工夫すること			単元 ・1年を通しての植物の成長を観察や映像資料などで指導すること ・植物を育てたり、身近な植物について一年を通して定期的に観察したりする活動を通して、身近な植物は、暖かくなる夏までは体全体の成長が顕著に見られ、寒くなり始めると体全体の成長はほとんど見られなくなるが、結実するなど、季節によって成長の仕方に違いがあることや、冬になると種子をつけて枯れたり形態を変えて越冬したりすることなどを捉えるようにすること ・身近で、季節による成長の変化が明確な植物とし、観察の時期については、「暖かい季節」、「寒い季節」として、それぞれ夏、冬を想定しているが、春や秋の特徴的な植物の成長も含めること	単元 ・1年を通しての植物の成長を観察や映像資料などで指導すること ・植物を育てたり、身近な植物について一年を通して定期的に観察したりする活動を通して、身近な植物は、暖かくなる夏までは体全体の成長が顕著に見られ、寒くなり始めると体全体の成長はほとんど見られなくなるが、結実するなど、季節によって成長の仕方に違いがあることや、冬になると種子をつけて枯れたり形態を変えて越冬したりすることなどを捉えるようにすること ・身近で、季節による成長の変化が明確な植物とし、観察の時期については、「暖かい季節」、「寒い季節」として、それぞれ夏、冬を想定しているが、春や秋の特徴的な植物の成長も含めること	
日常生活の指導 (係活動：水遣り係 小1～3 マリーゴールド)	生活単元学習 (栽培：小4 朝顔)	生活 (そだてよう： 小5 ヒヤシンス・ 小6 ミニトマト)	理科 (植物を育てよう～オクラ～)		
理科 (春・夏・秋・冬の植物の様子 ～ミニトマト～)			理科 (春・夏・秋・冬の植物の様子 ～ミニトマト～)		
生命の連続性／生物と環境の関わり					
日常生活の指導 (係活動：水遣り)					
小3理科 B生命・地球 (1)身の回りの生物			小4理科 B生命・地球 (2)季節と生物		

